

日時:令和7年(2025年)7月3日(木) 10:00~11:30

場所:市役所 政策会議室(旧 3-3 会議室)

出席委員:南島委員長、土山副委員長、岡委員、寺見委員、石丸委員、上月委員、中川委員、田中委員

欠席委員: 白井委員

1. 開会

事務局挨拶

事務局は人事異動により、4月から藤本部長、谷口次長、田中課長、佐柄となる。

委員挨拶

委嘱の新たな任期における第1回ということで、各委員が挨拶。

<委員 挨拶>

2. 委員長・副委員長選出

事務局

事務局からの推薦について了承を得る。

事務局からの推薦により、委員長に南島委員、副委員長に土山委員が就任いただくことに決定する。

委員長

<南島委員長 挨拶>

委員の出席確認・会議の成立

事務局

委員 9 名中8名の出席があり、会議の成立を報告。

3. 傍聴要領について

宝塚市行政評価委員会傍聴要領に従って運用する。委員会は原則として公開とし、傍聴を認めることし、議事録もホームページ等で公開する。

また、本日の傍聴者がいないことを確認した。

4. 第6次宝塚市総合計画及び第2期夢・未来 たからづか 創生総合戦略について

委員長

事務局より説明をお願いする。

事務局

<事務局から説明>

第6次総合計画と夢・未来 たからづか創生総合戦略について説明。

委員長

私の方からちょっと補足したいが、総合計画の36ページをお開きいただきたい。これが一応、基本計画の全体像ということになるが、36ページの重点方針の、3,4,5のところ、今説明があった地方創生総合戦略と、重なっている部分ということになる。地方創生交付金とか拠点整備交付金とか、種類はあるけれども、宝塚市の方では今説明いただいた中では、地方創生交付金は5,600万円ぐらいの規模ということになるかと思う。今年度の評価内容についてはその程度の金額となっている。そうすると市の財政全体で動かしているのは、市税収入、それから地方交付税交付金、それから各種補助金と、あと借金。これで賄われているという構図になっているが、こちらは総合計画の基本計画の方で、まず動いているという、前提があるということ。そのうちの、その創生総合戦略でその500万分の評価と、事業加速をさせるという話だというふうに思っていたかとよいかと。この点を補足しておきたい。

何か質問等は。

委員

私も3年間ずっとやってきて、何となく見えてきたが、地方創生2.0、いわゆる、政府が言っているのは、大きく2つ、少子高齢化と東京1極集中だから地方を活性化しなさいと。そこを受けて、さっきの委員長が説明された36ページ3,4,5を見ると、言葉では良いが、全部同じに見える。すなわちKGI等を見ると、結局(3)の高齢化社会への対応である。もうどんどん平均年齢上がっていくけども、便利で豊かな世界で、老人でも一緒に活躍できる世界。(4)が子供いきいき、これは少子化対策。(5)は活力ある、と抽象的な言葉が書いているけれども、結局事業と雇用創出と私は思う。すなわち目標の名称は、抽象ではなく、副題みたいな課題型に変えていかないと、これは企業でもそうだが、KGIとかKPAがぶれる。少子化といえば何を何にするのかとか、事業なら、今幾らを目指すのかとか。そういう風なところを、副題として書かれてると思う。別途いただいている総合戦略の、5ページ、3ページ。ここからKGIなりKPIを設定して、重点施策に落としていくというアプローチは非常に結構だと思う。もう全部はできないから、まだ重点施策でこういうことで予算つけていこうというこの流れの立て付けをしっかりと皆さんで頭ん中入れて議論進めるほうが、議論が発散せずに、よろしいかなと思う。

委員長

基本計画については、必要に応じて随時見直しをされるということだが、当面見直しの予定はあるか。

事務局

第6次総合計画は計画期間が10年間というところで、ドラスティックに変えるというところの予定はない。ただ細かい指標等について例えば施策評価ベースで見直すというのは随時やっている。基本計画そのものを変える予定は無い。

委員長

市長が変わったので、今後変えていくタイミングが来るのではないかとということを念頭に置かれて今委員が発言されたと思うので、変える際は、文言は変わらないかもしれないけども、解釈は、少し詰めたほうがいいんじゃないかという指摘であったと思う。そこも含めて、見直しのストックの1つにしていいただければというふうに思う。

時間に限りがあるので、ひとまずは、議事を先に進めさせていただく。委員会の中でも、次回でも、具体的な話を聞きながらコメントをしていただきたい、いろいろとご意見を賜ればという風に考えている。

5. 令和6年度行政評価委員会の答申を受けての回答について

<事務局より説明>

事務局

昨年度の行政評価委員会の答申を受けての各部対応状況について報告。
昨年度の施策評価は、1 都市経営と、3健康福祉についてであった。

委員長

補足を2点申し上げると、1点目は、なぜ報告していただいたかと言うと、昨年度の委員会において、委員会のコメントに対してどういうレスポンスをされるのかというところのフィードバックを、いただきたいというふうなお話があり、今回ここで報告をいただいているという位置付けになろうかと思う。

もう1つは、少し見ていただくと、ほとんどのコメントについて、わかりました検討しますというご回答になっている。これが非常に重要で、普通は、こういう委員会のコメントについては、いや、行政はこう考えてます、ちょっと違うんですけどもう少しご理解いただきたいみたいな反応があってしかるべきだが、すべからず忝承になっている。これは非常にこの委員会の成果として、誇りたいところであるが、いくつかはやはり困難ですというふうに言っているところもある。今後逆に困難ですとか難しいですという風に言っているところだけはチェックしていただきたい。そのように思うが、数がそちらの方が少ないので、ほとんどが頑張りますというご回答だということで、補足を申し上げておきたいと思う。何かご質問は。

委員

今の委員長の話の中では、検討しますというのは評価しますということだったが、一般質問における答弁で「検討します」のは概ね「そのまま聞き置きする」というに近いところがあり、さらに考え方を整理しますという答えであること。

検討しますという答えで留め置いても、何もこちらから打ち返すことができないという状況で、そういう意味では「検討します、考え方を整理します」ということは、一体そのあとのようになるのかということについて、このような終わり方ではいけないと思いながら読んでいた。

むしろ、検討した結果やっぱりできませんでしたというほうがむしろ、決断としては応答としては誠実であると思うが、その時に気になるのはどうしてか理由がない。決断に対する理由がないことよりも、こういう理由だからこのように我々は判断しましたという方が、すっきりするなと思うながら読んでいた。

委員長

事務局から何か回答は。

事務局

委員指摘のとおりという認識である。事務局の担当は今年度全て異動で入れ替わっているが、昨年度の行政評価委員会資料をみると、非常に多くの数の施策評価について、ものすごい熱量を持って、打ち返していただいているということについて驚いていたところである。一方で、各担当部署とも、数多くの評価について、熱量を持って打ち返しているかとなると、なかなか膨大

な評価の中で良い循環というものが起こっていないという課題はある。

そういったところも、反省として考えている。それが、総合計画の在り方と関わってくるような内容なので、その辺のところもちょっとご説明をさせていただきたいなというふうに思っている。

委員

PDCAのCで止まっているということにならないようにしてほしいと思う。

委員長

事務局からは少し、市役所の側の立場としてはもっと真摯にというふうなご回答があったかと思うが、ちょっと立場逆のようだが私の方から補足をさせていただく。

やはり総合計画改定時にフィードバックするものなど、中長期的にフィードバックするものもある。

それを単年度で回答を求めるところに難しさは多少あったのかなというふうには思っている。ただ議論の過程では、人事異動もあって担当課長も変わられたかもしれないが、かなり熱心に、回答いただいて取り組みもしてというポジティブな姿勢も多々見られた。そこはちょっと立場が逆のような感じもするが、フォローしておきたいと思っている。その他、質問等あるか。

委員

過去にも、こういう答申で、課題が溜まっていく状況なのかなと思うが、その中で優先順位つけてってところあると思うけれども、そういった課題管理とか、そういう見直すタイミングはどのタイミングでされているのか、教えていただければと思う。

委員長

課題管理についての質問について事務局より回答をお願いします。

事務局

この課題についてはまず、細かく言うと、事務事業評価というのが下に一番下にあって、その事務事業に紐づいているのが施策、これについて施策評価を行っている。施策評価表についてそれぞれ各部ごとに管理しており、まずは内部評価、その担当部内での評価は行ってきた。それについては、これまでだと各部局でやった評価っていうものを行政評価委員会の皆様に見ていただき、そのフィードバックを受けて、それについてこういった形で取りまとめいただいた答申内容に向けてこのような形で提示している。また、この施策評価は、総合計画に基づく、施策評価なので、この総合計画がおそらく中長期的に見て、委員長から指摘があったように中長期的に総合計画を見直すというフィードバックの段階で、実際この施策がどのように上手くいったのか、いかなかったのかというところを振り返るきっかけがあるのかなと考えている。

委員長

今後、こういう政策評価表についての蓄積をまたもう1回見直し、反省点といったところにつなげていくのかなというふうに解釈した。

6. 令和7年度宝塚市行政評価委員会について

<事務局より説明>

行政評価の目的について

今年度の行政評価委員会は、総合戦略の評価及び、総合計画の評価の在り方についての審議を行うこととする。

スケジュールに関しては、総合戦略評価までで一旦答申を出すことと、その後次年度の評価の在り方について冬頃に第4回を開催することを説明。

当委員会と同時並行で施策評価についての内部評価を進め、その結果を踏まえた総括を行う予定。

また、参考として本市の財政状況も説明。

説明途中で森市長が出席、委嘱状の授与を各委員へ行う。

委員長

もう時間に余裕は無いが、何かご質問コメントがあれば。

委員

最後の話は、来年度以降の行政評価をどうするということを検討する必要がありますよということ。

スケジュールの中で、とりわけ8月のKGIベースの議論をしても、総論の議論過ぎる可能性はあると。一方で、先ほどの「検討する」というような言い方についてはそれ以外の具体的な答えをたくさんいただき、具体的なお答えはとても手応えのあるすばらしいものだったなというふうに思っており、それはなぜそれができたかと言えば、具体的な項目について具体的なことを言ったからだ。だから、今回の評価の対象になる項目のことは、議論しても総論の話しかできないではないかというふうに思っているのが大きな懸念。

簡単に言うと、この3年間で健康寿命が変わるような状況があれば、それは統計のほうがおかしいというレベルの話であって、そこで何を言うことができるのかなというふうに思っている。施策の全体の形を見ることが大事だというのが、この委員会として挙げられるべきところだと思っている。むしろ選択と集中のような話を具体的にすること、もしその行政評価で可能なのであれば、そこは、委員長のご見識にも依ることになると思うが、12月のところで、来年度以降どのようなことでそれが可能なのかを考えると思っている。選択と集中は本来は意思決定であるから、意思決定のための情報を提供することになると思うが、例えば民生費に関わる事業は、やはり1つ1つの個別事業の予算は小さいので、ちまちま削って4億を削り出すことができるかということそれは相当に難しいし、やろうとすると、たくさん事業をむしろやらなければいけないということなのではないかなという問題意識を持っている。そうしたことも含めて、来年度以降どうやって意味のある議論ができるか。私自身は、削るべきところは削るけれども削っていけないところは削ってはいけないということも大事だということに思っており、そういう宝塚市民の宝塚市政がより良い形である。もちろんそれには、持続可能なところが入っていると思うが、そうしたことに對して、委員会としての問題認識を共

有することが、本年度の一番大事なことなのかなと思いながら、今年度、努めたいと思っている。

委員長

ご発言を受けとめたいと思う。その他はどうか。

委員

財政の説明いただいたところがあったが、財政のところでコスト削減していかないといけないとの言及があった。ところで、宝塚市の地方創生総合戦略とのリンクがどのようにされているのか。この施策を進めていくと結局コストがかかるのではないかなというところも思ったところだが、その辺りどのようにとらえているか。

委員長

私の方から回答すると、交付金額が 500 万しかない理由がそれだということ。ただ石破政権において、これを大きく拡大するというふうにおっしゃっているので、どれくらいぐらいなるかわからないが、一応 5 倍という数字が時々メディア出ているが、×5としても 2500 万円。だから、その予算に比すると、ほんのわずかということとなる。

委員

その地方創生交付金は平等に分担されるものか。

委員長

国の方の情報創生交付金の配分は、国の方で、審査がなされて配分をされている。宝塚市が申請した事業に対して、それにKPIとか評価もやるという約束の上で補助金が配分されるので、その報告も国に対してするということになる。事業配分については国の方で公表されている。

委員

字が小さいので、資料をデータでいただきたい。

事務局

委員会終了後、データを送付する。

委員長

一旦、本日の行政評価委員会ここまでとさせていただきます。次回は実際に評価を行っていくということで宜しくお願いする。

事務局から連絡事項があればお願いします。

事務局

第2回は8月8日の13時から15時15分の予定
場所は市役所の特別会議室に変更となる。
資料は改めてデータで共有する。

閉会